

子どもは謎

一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 **安家 周一**



私事になりますが、私はあけぼの幼稚園卒園後地元の小学校を経て、中学高校は自由学園の寮生活で6年間過ごし、大学は大阪に戻ってきて心理学を学びました。その後2年間、企業に勤めた後あけぼの幼稚園に奉職。10年間しょうがいを持つ子どもとの保育を経て、園で仕事をしながら大学院で再び心理学を学び、修了して現在に至ります。今年で幼児教育生活47年が経ちました。

こんなに長い間同じ仕事を続けているのですが、未だに「これでいいんだ」「子どもってこうなんだ」という確信はなく、子どもに対してはいつも不思議さを覚え、教育方法、保育の手だても暗中模索、試行錯誤の繰り返しで、理解力の足りなさに萎れてしまうことさえあります。

イタリアのレッジョ・エミリア市は幼児教育で街づくりをしていて世界的に有名な都市ですが、市教育長を務めたリナルディはこのように述べています。「子どもの声を聴く哲学 (The Pedagogy of Listening) を重んじている。何より重要なのは初めに保育者の計画通りに保育を進めるのではなく、子どものしぐさや言動からその思いやイメージを読み取り、保育を構想・組織化していくことである」と言います。まさしく大人側に正解があるのではなく、「何かを教える」や「何かをやらせる」ことが優先するよりも子どもの心に寄り添うことが何よりも大切であると説いています。

私も何年やっても、子どものアイデアには良い意味で裏切られ、子どものすごさに打ちのめされます。だから、一緒に活動する、保育することは楽しいと感じられるのです。このような子どもの声を聴こうとする保育は、子どもの集中・没頭を生み出し、困難なことにチャレンジしようとする意欲を育み、他者と協同して問題を解決する姿勢や自己に対する自信・自己肯定感を育むと考えられます。保育者のこのような行動は、まさに教科書のない教育である乳幼児保育における大人が大切にしなければならない姿勢を言い現しています。

小学校以降の義務教育から高校までの教育は学習指導要領に（大学には学習指導要領は存在しない）基本的には学習する内容が規定され、人間が過去から蓄積してきた文化を憶え活用することが目指されます。言い換えると第一義的には目に見えて数で測れることのできる「認知的能力」を高めることが要求されます。もちろん質の高い教師は児童たちに洞察力を要求し、問題解決能力を重視し、ディスカッションや学び合いから豊かな授業を繰り広げていますが、多くは教科書を忠実に教える従来手法から抜け出せきれていない現実もあります。

それに比して乳幼児期の保育は測ることが難しい力である「愛他心・包容力・忍耐力・能動性・我慢する力・お互いが気持ちよくつきあう方法・長い短い・重い軽い・これとこれを混ぜるとこうなるのではないかななどの推測力・調度ができる・・・」書きあげればきりがなくらいに人が幸せに生きていくのに必要な力＝非認知的能力のほとんどをこの時期に学びます。実に壮大な学びの時間です。その人生にとって最も大切な時間を共有させてもらう存在として私たち「保育者」が存在するとすれば、子どもと私たちは尊敬し合い学び合う存在でなければならないと思うのです。そのことは親子関係も同義で、その実感を保護者に伝えることが設置者・園長の実行し得る最も大切な幼児期の教育とも言えます。

我が敬愛する服部祥子さん（精神科医師・頌栄短期大学、大阪人間科学大学元学長）は人生を三幕ドラマであると著書に書かれています。第一幕は誕生から1・2歳まで。母なるものに包まれ親をはじめとする大人のそばで生活し、大人を真似ることで安心して過ごす時期です。この時期には前述の非認知的能力を多く学びます。優しい親に育てられた子は優しさを身につけ、虐待されれば自ずとそのような育ちとなります。育てられたように育つ時期を経て、第二幕。思春期に突入り親を疎ましく思う心や批判的に生意気を言ったりしながら第一幕を基礎にしながら自分は何のような人間なのかと葛藤し、自分の価値形成をはかる時期でもあります。そして、一番時間的には長い第三幕である大人の時間が到来します。第一幕・二幕を基礎に社会での生活を行い、結婚し家庭を持ち、自分が育てられたように子どもを育て、我が子の第一幕に深く関わるといった大切な過程を述べておられます。子育てをするということは決して大人が子どもを育てるという一方通行ではなく、共に生活をする中で相互に影響し合い、関わり合いながら育ち合っていくのでしよう。

私が小学校就学前の子どもたちとの生活に楽しさやおもしろさを感じ、また、親子関係によって子どもの育ちが大きく変化することを垣間見るとき、同時に子どもの不思議さや保護者の子育ての悩みにつきあうことを源泉として、学びへの意欲が沸々とわきあがります。

だからこの仕事が興味深く、いつまでも続けられるのでしよう。

引用、参考文献

「子どもが育つみちすじ」 服部祥子著 朱鷺書房 1989

「レッジョ・エミリアと対話しながら」 カルラ・リナルディ著 ミネルヴァ書房 2019

砂場と遊びの重要性についての社会的認識の広がり

同志社女子大学現代社会学部 教授／笠間 浩幸



前稿では、ヨーロッパにおける子どもの尊重と幼児教育施設及び屋外遊び場の誕生、さらにそこに砂場が登場したことについて述べました。

その砂場はやがて、アメリカにおいてさらなる子どもの遊び環境の発展を生み出します。

1885年、アメリカ合衆国ボストンのノースエンド地区パーメンター通り20番地。ここに、アメリカで最初の監督者付き遊び場が誕生しました。今でも、そのことを示すプレートが建物の壁に掲げられていますが、その遊び場というのが、実は砂場でした。

当時この地域は、貧しい移民が多く住むスラム街でした。学校に行けない子どもたちは、一日中、街をふらついたり、喧嘩やものを壊したりと不健康な毎日を送っていました。そこにマサチューセッツ州緊急対策及び衛生協会が、ドイツにおける砂場の情報をもとに大きな砂場を設置したのです。すると、毎日大勢の子どもたちが笑顔で遊び、大人たちは遊びの重要性と環境の大切さに気づきました。

すぐに、ボストンのあちらこちらに砂場がつくられ、やがて同じような社会問題を抱えていたニューヨークやシカゴなど他の都市にも砂場は広がりました。また、砂場とともにブランコやシーソーといった遊具も設置され、ここに「児童公園」が誕生したのです。このような動きは「プレイグラウンド・ムーブメント（遊び場づくり運動）」として、日本を含め世界に広がっていきました。



シカゴのプレイグラウンドと砂場 注1

また、このような動きは子どもだけにとどまらず、産業の大きな転換点のなかで疲弊していたアメリカの大人たちにも影響を与え、「全米レクリエーション協会」という団体も設立されました。

協会の調査部長であったバトラーは、遊びや余暇の社会的な浸透について、「健全なレクリエーションを行うことは、人格をつくるのに役立つ。（中略）健全で豊かなレクリエーションが人々の心をとらえているような地域社会では、そのような適当な施設のない市や町よりも、非行はずっと少ないのである注2」と述べています。

もちろん、遊びは本来、非行防止を目的としたものでも、そのための手段でもありません。その点でこの言葉はやや本末転倒な言い回しかも知れませんが、当時の不衛生かつ劣悪な生活環境の中で、極めて悲惨な状況にあった子どもたちが、今までなかった遊び場の登場によって、どれほど救われたのかをここから知ることができるでしょう。

一方、アメリカの幼児教育は当初、堅苦しい大人中心の教育が行われ、なかには園庭の備えのない幼稚園もありました。しかし、徐々に子どもの自由な遊びや主体的な活動に注目がなされるようになり、公立の幼稚園教育の広がりとともに砂場を中心とした屋外遊び場も着実に根を下ろしていきます。このことは、「遊びへの関心は幼稚園運動によって普及したのであり、砂場と幼稚園は同義語である。幼稚園の支援者たちがプレイグラウンドの推進者でもあった注3」とも評されています。

また、心理学の先駆者であったスタンレー・ホールは、わが子とその友だちのために砂場をつくり、次のような言葉も残しています。

「砂遊びには、勤勉な努力、見通しをもった運営、道徳、地理、数学等のあらゆる教科の要素が含まれている。（中略）ここには、完全な精神の健康と統一がある。（中略）多様な興味と活動を統合させる砂遊びは、教育として理想的である。教育においては、理想的なものほど実際的であり、実際的なものは理想的なものである注4」

「たかが…」と思われがちな砂場での遊びが、社会の目を真正面から子どもの日常に向けさせるとともに、遊びは子どもの様々な能力を自然に引き出す重要な鍵であるという理解の広がりを生んでいったのです。

注1：Sly, M. E. (1897) A Chicago Playground, *Kindergarten Magazine*, 10(3) p.149

注2：三隅達郎 (1962) 『レクリエーション総説』p.40

注3：橋川喜美代 (2006) 「アメリカ進歩主義幼稚園の改革運動と〈砂場〉」『鳴門教育大学研究紀要21』p.84

注4：津守 真 (1987) 『子どもの世界をどうみるか』pp.198-199

参考：笠間浩幸 (2001) 『〈砂場〉と子ども』

新システム「ゆたかなまナビ」について承認

● 10.26 第2回理事会

10月26日、第2回理事会を対面とオンライン併用にて開催、理事17人が出席し定足数を満たし開会しました。安家周一理事長が議長となり、議事録署名人は、満場一致をもって内野光裕理事、杉山一夫理事が選任されました。議事内容は以下の通りです。

【決議案件】

1、幼稚園ナビに代わる新システム「ゆたかなまナビ」の利用料の承認の件

安家理事長及び加藤専務理事より幼稚園ナビに代替する新システム「ゆたかなまナビ」の利用料について説明があり、質疑応答や意見交換を経て、審議の結果承認されました。

2、理事の職務権限規程変更の承認の件

安家理事長及び事務室より理事の職務権限規程変更の委細の説明があり、審議の結果承認されました。

3、令和5年度第3回評議員会の開催の承認の件

安家理事長より第3回評議員会の開催について説明があり、審議の結果承認されました。

【報告案件】

1、幼稚園ナビに代わる新システム「ゆたかなまナビ」への移行の件

事務室より幼稚園ナビが運用停止となり、新システム「ゆたかなまナビ」へ移行するにあたってのスケジュールや留意点の報告がありました。

2、役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規程変更の件

安家理事長及び加藤専務理事、事務室より役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規程の変更意図やその箇所について説明があり、原案を評議員会に諮ることとなりました。

3、業務執行理事からの執行報告の件

各業務執行理事より、研究研修部門、調査広報部門、本部部門、そして機構全体それぞれに関して業務の執行状況について報告がありました。主には、第14回幼児教育実践学会の開催報告、令和6・7年度教育研究課題と研修俯瞰図及び保育者として身に付けたい資質・能力の道しるべの作成報告、オンデマンド研修の配信状況、ECEQ[®]コーディネーター養成講座及びフォローアップ研修会の開催状況、ホームページのリニューアルに関する報告がありました。

● 11.14 第3回評議員会

11月14日、第3回評議員会を対面とオンラインの併用にて開催、評議員11人が出席し定足数を満たし開会しました。安家周一理事長のあいさつ後、出席した評議員の互選により、清川かつ美評議員が議長に選任され、議事録署名人に奥田一品評議員、岡部圭二評議員が選任されました。議事内容は以下の通りです。

【決議案件】

1、役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規程変更の承認の件

安家理事長及び加藤専務理事、事務室より役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規程の変更意図やその箇所について説明がありました。質疑応答を経て審議をしたところ、満場一致をもって承認されました。

【報告案件】

1、幼稚園ナビに代わる新システム「ゆたかなまナビ」への移行の件

2、幼稚園ナビに代わる新システム「ゆたかなまナビ」の利用料の件

3、理事の職務権限規程変更の件

4、理事会からの執行報告の件

いずれの報告案件も、第2回理事会での審議状況を踏まえて報告しました。その後、質問や貴重なご意見をいただきました。

文部科学省委託研究事業を通じて開発した幼稚園ナビが運用停止となることを受け、当機構では研修にかかる代替システムとして「ゆたかなまナビ」を開発しています。詳細のご案内は順次おこなって参りますので、今しばらくお待ちください。 (専務理事 加藤篤彦)



第14回幼児教育実践学会口頭発表（日本女子大学附属豊明幼稚園）

令和5年8月18日（金）・19日（土）に東京・大妻女子大学にて開催された、第14回幼児教育実践学会口頭発表の概要を掲載します。
3園より、日々の現場で見えてきた課題、解決のための実践的な取り組み、今後の幼児教育を担うための振り返りをご報告いただきました。

新たな試みから見えてきた実習指導の在り方

東京都 日本女子大学附属豊明幼稚園／熊谷 彩香 加藤 寛子
柳原 希未 日下部 弘美
研究協力者：日本女子大学教授／請川 滋大先生
日本女子大学特任教授／桑原 淳子先生

本園では保育の可視化に伴い、数年前より「日々の振り返り・保護者への伝達ツール」として多くの教員が写真を活用したドキュメンテーションを作成しています。一方、実習日誌はエピソード型記録が主流でした。近年、実習日誌に負担を感じる学生が増加傾向にあることを鑑み、本学児童学科と協働し2022年度からドキュメンテーション型記録を実習日誌に導入、PCも認め、幼稚園滞在中に日誌の記述時間を約30分/日（なるべく複数できるように）設けるように心がけています。

導入年度の実習指導後、実習生自身が撮影した写真を媒体として当日の保育について語り合うことで担任・実習生両者に新たな発見があり、楽しく貴重な対話の時間（①）となった利点が挙げられました。実習生は写真の特性から状況を詳細に文章化する必要がなく、場面を想起しながら生まれてくるエピソードを基に記録していました。また仲間と一緒に記録できる環境は緊張から解放され、学生間でも会話（②）が弾んでいました。これらの対話（①②）は保育の魅力を感じられる機会（実習生）・再確認する場（担任）となり、担任にとっては翌日の保育を構想する上で大変役立ちました。しかし取り上げた場面の考察、つまり「自分の思い・具体的な援助」「子どもの内面の読み取り」「環境構成」等が日誌上に反映されにくいという課題にも直面しました。

学年末に田澤里喜先生（玉川大学教授）との園内研修にて、次年度の実習指導の方向性を検討しました。実習生が主体的に楽しく取り組めるような環境作りを基盤としながら、5領域などを意識して専門職としての大切な



視点を伝え、視野が広がっていくような指導法を再確認しました。そのためにはドキュメンテーション型記録だけに拘らず、「時系列型」「エピソード型」「マップ型」等、実習生の目的に応じて柔軟に記録形態を選択するようにし、部分・責任実習においても保育者としての役割が捉えやすくなるように内容を工夫しています。

学会当日は兵庫県・大阪府・札幌市などの実習ガイドライン・研究会について話題提供がありました。またドキュメンテーション型日誌の特徴をおさえた上で、「実習における子ども理解の深まり」という重要な視点も示唆されました。引き続き大学と協働しながら、豊かな対話からの学びを実践に生かしていけるような実習指導の在り方を追求していきたいと思えます。

Seagullkids

こどもの笑顔に勝る制服はない。

株式会社 矢部スロカッターズ

URL: <http://www.seagull-yabe.co.jp> E-MAIL: yabepro@seagull-yabe.co.jp

本社	〒241-0821	横浜市旭区二俣川 2-85-2	TEL 045-363-6871	FAX 045-361-3085
東京支店	〒179-0084	東京都練馬区水川台 3-21-14		TEL 03-6281-0025
千葉支店	〒276-0026	千葉県八千代市下市場 1-13-8		TEL 047-481-7723
埼玉支店	〒330-0604	埼玉県さいたま市大宮区堀の内町 2-1-1		TEL 048-640-3003
仙台支店	〒981-3131	宮城県仙台市泉区泉中央 1-47-1 アコーズ泉中央 103		TEL 022-218-3217
大阪支店	〒653-8104	兵庫県西宮市天瀬町 25-15 KIマンション 1F		TEL 079-969-6510
札幌営業所	〒007-0834	札幌市東区北 34 条東 14 丁目 3-1 マンション東堂 1F		TEL 011-712-8088
福岡営業所	〒811-0214	福岡県福岡市東区和白菜 2-14-28 エクセル和白 103		TEL 092-606-5080
名古屋営業所	〒464-0083	愛知県名古屋市千種区北千種 2-3-18 1F		TEL 052-778-7272
広島営業所	〒721-0955	広島県福山市新深町 3-27-8		TEL 084-953-8818
仙台工場	〒981-0504	宮城県東松島市小松字総田 110		TEL 0225-82-8111
稚内工場	〒097-0001	北海道稚内市末広 5-35-1		TEL 0162-32-8111
物流センター	〒981-0504	宮城県東松島市小松字総田 108		TEL 0225-82 8154
第二物流センター	〒721-0955	広島県福山市新深町 3-27-8		TEL 084-953-8818



『園』の『庭』に『魅』せられる『力』 ～庭と涙と子どもと大人～

大阪府 庄内こどもの杜幼稚園／岩崎 巧
豊中あけぼのこども園／三倉 敏浩

あけぼのぼんぽこども園／藤田 勲
研究協力者：梅花女子大学教授／安家 周一

〇はじめに

本研究は、一般的な園庭と研究対象園の園庭は、「何か」違うという事を、問い直した2法人3園での合同研究です。今回、参加者と共に対話し、それぞれの学びとなる為に「仮説」で終わるという“斬新な”方法で発表しました。それぞれの環境の違いは、武器なのか、違いの本質は同一なのか。子どもも大人も“ワクワクする”園庭には何が必要なのかを追求しました。

〇「課題」と「現状」

幼児期の教育は抽象的な学びとなる小学校教育の前に抽象と具体を繋げられるように、具体的な体験をする事が大切です。しかし現代では「生活を豊かにする情報機器」に幼児期の子どもが触れない事は不可能で、幼児期に必要な具体的体験と社会情勢が乖離しているという課題が見えてきました。

そこで本研究では「Society（人間中心の社会）」に着目しました。Society（1.0～4.0）は、狩猟社会（1.0）、農耕社会（2.0）、工業社会（3.0）、情報社会（4.0）と進化してきましたが、これから訪れるSociety5.0（超スマート社会）は予測不能な社会になると言われています。これらを保育で例えると、1.0は泥団子を作る、2.0は畑で野菜を育てる、3.0は電気（電球・マイク等）を使う、4.0はWEBで検索するといったものが挙げられました。

〇「事例」からの「検証」

続いて3園の園庭のこれまでの変化のプロセスや理念等を紹介しました。各園、取り組み方は様々でしたが、固定遊具を減らし、自然や生き物が住みやすく、可塑性の高い環境構成に向かう点は共通していました。また、それぞれ園庭で遊ぶ子どもの姿を集め、カテゴリごとに

分析・分別してみると、「自然、生物、道具、人」等、共通したキーワードが生まれ、明らかに「Society1.0」の要素が園庭に溢れている事がわかりました。

〇「考察」と「仮説」

Societyは数字が大きい程、少量でも影響力は強く、数字が小さい程、反比例していて、10歳くらいまでに豊富な量のSociety1.0（生み出す面白さ）を体験する事が、今後訪れるSociety5.0（予測不能な社会）を「生き抜く力」を育むのではないかと考えられます。そして、Society1.0が存在しない体験出来ない現代社会で、園が意図的にそれらの環境を創り出しSociety1.0の世界を多く経験し、家庭ではSociety4.0に触れる等、「経験の振幅」を広げていく事が重要であるのではないかとこの仮説に至りました。この「仮定」を日々“ワクワク”する園庭作りに挑まれている全国の園に寄与出来れば幸いです。

最後に、今回の幼児教育実践学会開催にあたり、多大なるご苦勞があった全日本私立幼稚園幼児教育研究機構の方々、この場をお借りして感謝申し上げます。



私達は衝撃緩和帽の開発を通じて大切な子供達の未来を守ってゆきます！

ゴツン!! から、まもってあげたい。

子どもの頭を守る帽子

企画・開発 株式会社リード

〒028-6104
岩手県二戸市米沢字家ノ上39-1
<http://hot-anshin.com//index.php>

お問い合わせはこちら
安心帽販売

TEL 090-8644-5654
FAX 042-563-8907



「子どもと先生がともに主体的である保育とは」 ～保育におけるさまざまな「決める」場面～

大阪府 パドマ幼稚園／中島 美和子

パドマ幼稚園／北口 有希子

研究協力者：神戸教育短期大学講師／弘田 みな子

●「子どもの主体性」と「保育者の主体性」

保育を振り返るなかで、子どもたち主体か、先生のリードかで偏りがちだったことに気づき、どちらも大切にしたいと考えるようになりました。そのときに1つ、ポイントとなるのが「みんなで決める」ということです。例えば、活動の中に子どもたちの意見をより反映していく方法や、子どもたち同士の意見の違いを合意形成に導くような関わりを、どのような保育活動や保育者の関わりによって実現できるかを研究しています。

●子どもが決める、さまざまな場面

多数決1つをとっても、相対多数・順位得点付き・過半数・全会一致などがあります。その他、じゃんけんやくじ引き、案の再構成を行うなど、多岐にわたった決め方があります。保育者の関わりとしては、個別に聞き取りをしたり、保育者が提示または実演をしたりすることがあります。隣の席のお友だちとの相談や、グループの話し合い・個々の挙手による意見の発表もあります。年中・年長では、希望者同士のグルーピングや投票を経験しました。子どもたちの決める場面において、このような選択肢のなかからどのように決め合意形成をとっていくか、子どもたちの様子をみて考えました。保育者の専門性が問われるプロセスです。

●自分たちで決めることで経験する「葛藤」やそれぞれの「想い」

参観日に歌いたい曲を決める場面で、自分の意見が通らなかつたC児が納得いかず、みんなの輪に入ることを拒否するようになってしまいました。翌日、決まった曲「上を向いて歩こう」の好きなところを出してみよう！という時間をつくりました。これは、C児がこの曲に興

味をもってくれるといいなという先生の想いからです。「上を向いたら星が見えるよ」「ゆっくりで歌いやすいよ」「優しい感じがするよ」などと、すてきな意見がたくさん出ました。すると、最初は不服そうにその場にいたC児が、この曲が好きになったと笑顔を見せてくれたのです。

なるべく子どもたちが自分たちで試行錯誤できるように先生は見守り役に徹するのですが、時にはこのように先生が介入してもよいと考えています。

●研究を通して

子どもの決めたいことと保育者の願いを擦り合わせる場面が増えたことで、「保育者自身が本当にしたいこと」にも意識が向けられるようになり、「保育者の主体性」が発揮できる場面が増えました。

今回、発表の最後にグループワークを行いました。他園さんの様子が知れたり、アドバイスをいただいたりと貴重な時間をいただいたことに、感謝申し上げます。今後の保育に活かしてまいります。



私たちは幼児教育用品を通じ、幼児教育の質の向上に貢献します。

Gakken

ひかりのくに

フレーベル館

世界文化学芸

JAKUETS

Child
チャイルド本社

ようちえん絵本大賞の歩み・大好きな絵本と共に

一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 調査広報委員／波岡 伸郎

調査広報委員となり2年目の委員会で、当時の会長から「調査広報委員会で絵本に特化した企画を考えてほしい」との宿題が出され、私はその担当になりました。私は絵本に対して造詣が深いわけでもなく、娘や幼稚園で時々読み聞かせをする程度の絵本との付き合いでした。そんな私が思いついた企画は「第1回ようちえん絵本大賞」と名付けられた絵本の人気投票でした。全国の加盟園に投票用紙を配布して、園で人気の絵本を10冊書いてもらい、1位から20位までの順位をつけて発表するという企画でした。全国約8,000の加盟園のうち回答があったのは約700園でした。20位までを発表し、上位10位に入選した絵本の各出版社の方に出席いただき、表彰式を行いました。次の年、今度は各園の保護者に投票してもらい順位を付けるという「第2回ようちえん絵本大賞」を実施しました。今度は18,000枚の回答があり、努力の甲斐があったとすっかり上機嫌の私でしたが、選ばれた20冊のうち約半数は「第1回ようちえん絵本大賞」と同じ絵本でした。今思えば、当然の結果だと予想がつかますが、そんなことさえ分からない当時の私でした。「第3回ようちえん絵本大賞」をどのような形で実施すればいいのか、途方に暮れていました。そんな時、神楽坂にある「日本児童図書出版協会」の事務局長さんにお話を伺う機会があり、私は「ようちえん絵本大賞」という名のもと絵本の人気投票を2回行ったが、今後どのように進めていけばよいかを尋ねました。すると「日本中にはたくさんの絵本大賞のような企画があります。やり方にこだわらず自由にやればいいんです。いつも子どもたちのそばにいるあなた方だから子どもたちの大好きな絵本を一番よく知っているのではないですか。」とアドバイスをいただきました。この言葉をヒントに「第3回ようちえん絵本大賞」は、各委員が自園で人気のあるおおよそ8年以内に出版された絵本を3冊ずつ持ち寄り、選考会を行い、投票により上位約15冊を発表するという形に変更しました。しかしその頃、私の中で、選ばれる絵本は道徳的な内容の絵本や感動的な内容の絵本でなければならないのではないかと、子どもたちが笑い転げるような内容の絵本はエントリーすべき絵本に入れてはいけないのではないかと思いました。また、ある日書店の絵本コーナーにいと「もっとためになる絵本を選びなさい」というお母さんの声が聞こえてきました。ためになる絵本とはどんな絵本なのだろう。絵本のジャンルをどう捉えればよいのだろうかというようにいくつも

の疑問が生まれていました。そんな時、故 松居直先生（児童文学者、元福音館書店社長）に直接お話を伺う機会があり、私は自分の中の疑問をお尋ねしました。「ジャンルにとらわれる必要はありません。いろいろな絵本を楽しめばよいのです。また、絵本は何かを得るためのものではありません。絵本のファンタジーの世界にしっかりと入り込むことが一番大切です。」と答えて頂き、ジャンルを気にせず、いろいろな絵本を選ぶことができるようになりました。また、ある大学の先生が「絵本は大好きなお母さん、お父さん、園の先生に読んでもらうのが基本です。それは、その時間が読み手の愛情を受け取る時間だからです。このことが子どもたちの成長にとっても重要です。文字が読めるようになってからも好きな誰かに読んでもらうといいですね」とおっしゃいました。こんなお話を伺いながら、改めて「ようちえん絵本大賞」の役割とは何だろうかと考えてみました。私たちができることはもっともっといろいろな絵本を子どもたちやお母さん、お父さんに近づけることではないでしょうか。書店の絵本コーナーへ行くと、人気の絵本や人気作家の作品が平積みしてあり、すぐに目に付きます。しかし棚に収まっている絵本の中にも素敵な絵本が隠れています。そんな目につみにくいところにある絵本を私たちが紹介できれば良いのではないのでしょうか。

現在の「ようちえん絵本大賞」は、このような考えのもと、絵本の選考を行っています。いろいろな絵本を子どもたちやお母さん、お父さんに近づけるお手伝いをすることこそが当時の会長が望んでおられたことだったのかもしれない。そのことに気づくのに少し時間はかかりましたが、これからももっともっとたくさんの素敵な絵本を紹介できるよう努めていきたいと思えます。何よりも私自身が絵本のすばらしさに気づかせていただいたことに心から感謝しています。



機構からのお知らせ

幼稚園ナビの研修機能（幼児教育研修システム「ゆたかなまナビ」）を使った、オンデマンド研修を開催しています！

ゆたかなまナビは全国の先生方によりよい学びの機会を提供することを目的に、各地区から提供された優良研修コンテンツを中心に様々な研修コンテンツを配信しています。

研修会場への距離や受講する時間が合わないなどのハードルを超えてだれでもいつでも学びたい時に学べる環境を整え、全国の園の質の高い教育・保育を支えてまいります。



《オンデマンド研修概要》

- 申込期間: ~令和6年2月25日(日)17時
- 配信期間: ~令和6年2月26日(月)17時
- 申込方法: 教職員登録の上、幼稚園ナビよりお申し込みください。
- 受講料: 研修によって異なります。幼稚園ナビで確認ください。
- 支払方法: クレジットカード決済のみ
- 受講方法: お申込後、登録したメールアドレスに届くメールもしくは、幼稚園ナビマイページに記載の動画視聴URLより受講ください。
- 研修スタンプ: 研修受講後、3択5問の設問に回答し、80%以上の正解で研修スタンプを取得することができます。(追試は2回まで)
- 処遇改善等加算Ⅱ: 対応しています。

《新規配信コンテンツ(12月1日(金)~)》

講演名	講師名/肩書	時間数	俯瞰図番号
(安全・衛生シリーズ) 乳幼児の重大事故・死亡事故の実態と事故予防~子どもの命と安全を守るために~	藤井 真希/赤ちゃんの急死を考える会(ISA)、保育の重大事故をなくすネットワーク	1.0	A2
保育環境としての通園バス~安心・安全の先を目指して~	境 愛一郎/共立女子大学准教授	1.0	A3
(ECEQ@シリーズ) 保育の質と評価2~ECEQ@の質的検証から見えてきた園の独自性や多様性を尊重した効果的な学校評価~	淀川 裕美/千葉大学准教授	1.5	B2
第3回「子ども理解と記録」	中橋 美穂/大阪教育大学教授	2.0	B2
(教材研究シリーズ) 幼児期に自然環境に触れることの重要性	出原 大/むぎの穂保育園園長	1.0	B3
(教材研究シリーズ) 造形遊び「描画活動をアップデートしよう」	今川 公平/木の実幼稚園園長	1.5	B3
植物遊びのススメ	出原 大/むぎの穂保育園園長	1.0	B3
保育における幼児音楽を考える	出原 大/むぎの穂保育園園長	1.0	B3
ごっこ遊びの事例から、人間関係の学びを考える	講師: 大澤 洋美/東京成徳短期大学教授 発表園: 吉田保育園	1.0	B5
直接体験を豊かにするICTを用いた保育実践と労務への活用	講師: 勝見 慶子/香川短期大学講師 発表園: 認定こども園七松幼稚園	1.0	B5
新たな試みから見えてきた実習指導の在り方	講師: 請川 滋大・桑原 淳子/日本女子大学教授・特任教授 発表園: 日本女子大学附属豊明幼稚園	1.0	B5
「おいしいね!」がもたらすいくつもの力(パワー)~子どもたちに育てているチカラ・私たちが実感しているチカラ~	講師: 河邊 貴子/聖心女子大学教授 発表園: 泉山幼稚園	1.0	B5
主体性を大切にしたい保育とは何か~主体性に対する考え方の変遷から主体性を定義する~	講師: 井内 聖/学校法人リズム学園学園長・北海道文教大学客員教授 発表者: 恵庭幼稚園	1.5	B5
保育の質の向上につながる保育者の育ち~「教育課程」なのか「語り合い」なのか~	講師: 岡 健/大妻女子大学教授 発表園: せんりひじり幼稚園・ひじりにじいろ保育園	1.0	B5
(子どもの発達シリーズ) 乳幼児の数量能力の発達	浅川 淳司/愛媛大学准教授	1.5	C2
(子どもの発達シリーズ) 子どもの主体性を育む保育の役割	川田 学/北海道大学准教授	1.5	C2
学校法人会計(中級編)	守屋 俊晴・石橋 もと子/公認会計士・税理士 守屋俊晴事務所 所長・税理士	1.5	C3
(保育の可視化シリーズ) 保育の記録・可視化・発信の重要性~ポイントと実際の事例を通して~(保育者向け)	松井 剛太/香川大学准教授	1.5	D2

講演名	講師名/肩書	時間数	俯瞰図番号
集団で育てる特別ではない特別支援-脳機能の視点により心を育てる-	上原 芳枝/臨床発達心理士・特定非営利活動法人発達支援機関リソースセンターone代表理事 ※本研修はレポートを提供することにより研修スタンプが発行されます。	2.0	D3
(特別支援シリーズ) 子ども理解と関わり方の視点	伊丹 昌一/梅花女子大学大学院教授	1.5	D3
令和5年度特別支援教育研修兼10年経験者研修会 第1回「基礎講話:集団で育てる特別でない特別支援-特別支援とは何か-」 第2回「脳機能の視点による理にかなった支援①-感覚過敏・情報処理の問題-」 第3回「脳機能の視点による理にかなった支援②-環境刺激の処理困難-」 第4回「脳機能の視点による理にかなった支援③-パニック・自己コントロール他-」 第5回「脳機能の視点でふまえた気になる子を含むクラスづくり-見えない支援・見せない支援-」 第6回「実効性の高い個別指導計画の立案」・事例検討演習	上原 芳枝 /臨床発達心理士・特定非営利活動法人発達支援機関リソースセンターone代表理事 ※本研修はレポートを提供することにより研修スタンプが発行されます。	第1回～第6回各2.0	第1回～第4回 D3 第5回 E2 第6回 E3
(教材研究シリーズ) 科学あそび～気づき、発見、試行錯誤、工夫が生まれる保育のために～	瀧川 光治/大阪総合保育大学教授	1.5	E2
記録の重要性	上村 裕樹/東北福祉大学准教授	1.5	E6

《配信中のコンテンツ》

講演名	講師名/肩書	時間数	俯瞰図番号
(子ども理解シリーズ) 保育と子どものダイバーシティ(多様性)	戸田 有一/大阪教育大学教授	1.5	A1
教育保育施設における看護職の役割	福島美由紀・小倉 理沙/社会福祉法人あけぼの事業福祉会 船木 桃/学校法人あけぼの学園	1.5	A2
乳幼児期の食育	小川 雄二/名古屋短期大学保育科教授・桜花学園副学長、名古屋短期大学付属幼稚園園長	1.0	A2
子どもが安全にすくすく育つ園づくり～指針・要領に基づく保育実践から、子どもの健康と安全を考える～	猪熊 弘子/駒沢女子短期大学教授	1.5	A3
社会人マナー②危機管理&子ども虐待の再確認研修	斎木 里奈/株式会社こども保育環境研究所	1.5	A3
遊具安全点検について	鮎川 剛/全日本私立幼稚園連合会認定こども園委員	0.5	A3
保育事故防止の取り組みについて	鮎川 剛/全日本私立幼稚園連合会認定こども園委員	1.5	A3
バス運行の安全確保について	平野 豊/株式会社ジャパン・リリーフ	0.5	A3
食物アレルギーの最新基礎知識と対応	小川 雄二/名古屋短期大学保育科教授・桜花学園副学長、名古屋短期大学付属幼稚園園長	2.0	A3
リスクマネジメント	増淵 憲明/東京海上日動火災保険株式会社	1.0	A3
夏の感染症と危機管理	船木 桃/学校法人あけぼの学園あけぼの幼稚園 福島美由紀/社会福祉法人あけぼの事業福祉会 豊中あけぼのこども園 小倉 理沙/社会福祉法人あけぼの事業福祉会あけぼのぼんぼこども園	0.5	A3
これからの幼児教育に向けて	秋田喜代美/学習院大学教授	1.5	B2
幼児教育の更なる充実のために	秋田喜代美/学習院大学教授	1.5	B2
幼少期における音楽教育のあり方	出原 大/むぎの穂保育園園長	1.0	B3
3歳児クラスの絵の具画の進め方	永淵泰一郎/畿央大学准教授	1.0	B3
豊かな遊びを支える環境教育を考える～10の姿に向かう主体的な遊びの構成要素～	安見 克夫/東京成徳短期大学名誉教授	1.5	B3
(教材研究シリーズ) 乳幼児期における音楽遊びの実践	出原 大/むぎの穂保育園園長	1.0	B3
(教材研究シリーズ) 0・1・2歳児の遊びと表現～素材と向きあう～	和泉 誠/株式会社なーと代表	1.5	B3
社会人マナー①接遇&業務の遂行の基本動作研修	斎木 里奈/株式会社こども保育環境研究所	1.5	B4

講演名	講師名／肩書	時間数	休職回数
「夢中になって遊ぶ子ども」を育てるためのカリキュラム・マネジメント	倉岡 寿幸／山形県教育庁義務教育課指導主事 池田 友子・太田 智子／東北文教大学付属幼稚園園長・教諭	1.0	B5
労務初級1	安岡 知子／社会保険労務士法人財総研	0.5	B6
労務初級2	安岡 知子／社会保険労務士法人財総研	0.5	B6
労務初級3	安岡 知子／社会保険労務士法人財総研	0.5	B6
(保育環境シリーズ)乳幼児のための音環境	嶋田 容子／同志社大学赤ちゃん学研究中心 特任研究員	1.5	C2
資質・能力を基盤とした教育とは何か～幼小の連携・接続を中心に～	奈須 正裕／上智大学教授	2.0	C3
学校法人会計の基礎知識	守屋 俊晴／公認会計士・税理士守屋俊晴事務所 所長	1.0	C3
帳簿書類の取り扱いについて	石橋もと子／公認会計士・税理士守屋俊晴事務所 税理士	0.5	C3
子どもの育ちと経験の理解	講師:大橋 功／和歌山信愛大学教授 事例提供者: 岡本 和貴／わかさ幼稚園園長 川原恒太郎／ひまわり幼稚園 賀門 康博／郡山女子大学附属幼稚園園長 佐伯 妙有／伊勢原ひかり幼稚園園長 足立 正和／愛知文教女子短期大学附属一宮ひまわり幼稚園園長 水原 紫乃／焼山こぼと幼稚園園長 早川 成／久留米天使こども園園長 吉井 健／認定こども園信愛こどもの園園長	1.0	D1
育ちの理解と記録	味園 佳奈／鹿児島純心女子短期大学准教授	1.5	D2
インクルーシブ教育を考える～特別な支援が必要な子どもたちと共にある保育～	加藤篤彦／(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構専務理事	3.0	D3
「ゆたかなまナビ」チャンネル～子どもの思いをつなぐ遊びの環境を考える～	岡部 祐輝／高槻双葉幼稚園教頭	1.0	E4
(保育環境シリーズ)園庭づくり	小倉 寛庸／愛泉幼稚園園長 田中 康雄／光明幼稚園園長 中丸 創／かえて幼稚園副園長 丸谷 雄輔／札幌ゆたか幼稚園園長	2.0	E4
わたしはわたし みんなのなかのわたし	安家 周一／(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構理事長	1.5	E5
子ども理解が深まるまなざしと保育者の専門性～doing保育からbeing保育への転換を目指して～	井桁 容子／非営利団体コドモノミカタ代表理事	1.5	E5
子どもの姿に基づく保育の実践と評価～カリキュラム・マネジメント～	北野 幸子／神戸大学大学院教授	2.0	E7
「ゆたかなまナビ」チャンネル～学校評価の実施数／実施率の向上及び実効的な実施の促進と支援に向けて～	企画:平林 祥／ひかり幼稚園主事、一般社団法人大阪府私立幼稚園連盟教育研究委員会副委員長 評価チームリーダー 講師:安達 謙、秦 賢志、水谷 豊三	2.0	E7
「ゆたかなまナビ」チャンネル～公開保育加算説明～	企画:平林 祥／ひかり幼稚園主事、一般社団法人大阪府私立幼稚園連盟教育研究委員会副委員長 評価チームリーダー 講師:水谷 豊三、淡野 宏仁、背尾 康裕、北島 孝通	0.5	E7
「ゆたかなまナビ」チャンネル～園と保護者と保育者と≒施設に預けるということ～	安家 周一／学校法人あけぼの学園理事長	1.0	F1
スタートカリキュラムから架け橋プログラムを考える～幼児期の発達や学びからスタートカリキュラムへ～	實來生志子／東海大学准教授	1.5	F1
職員による子供への虐待を予防するために～不適切な教育・保育を予防するために～	山縣 文治／関西大学教授	1.5	F2

令和6年3月に新コンテンツを配信する予定です

配信コンテンツには、すでに各都道府県私立幼稚園団体等で配信したコンテンツも含まれますので、お申込み時にはご注意ください。

第15回ようちえん絵本大賞の選考について

本号でようちえん絵本大賞の歩みをご紹介いたしましたが、第15回ようちえん絵本大賞の選考を12月14日に行います。選考基準にのっとり調査広報委員会が思いを込めて選考します。受賞作品は次号でご紹介しますので、お楽しみに！

(調査広報委員長 高尾恵子)

【第15回ようちえん絵本大賞 対象絵本】

- 過去8年以内に出版された絵本
- 子どもに読み聞かせたい絵本
- お父さん・お母さんにお勧めしたい絵本
- まだ多くには知られていない絵本
- 幼児教育者しか教えられない絵本

研修ハンドブックが新しくなります！

まなびの広場10月号で、「保育者としての資質向上研修俯瞰図」の改訂を行い、併せて「私立幼稚園・認定こども園の保育者として大切にしたい理念・哲学」と「保育者として身に付けたい資質・能力の道しるべ」を新たに作成したことを報告いたしました。

これらの内容を踏まえて研修ハンドブックを改訂し、令和6年1月下旬販売予定として現在準備を進めています。

保育者としての資質向上のために、研修の受講履歴を研修ハンドブックにしっかりと残し、学びの履歴の可視化に努めましょう。

(研究研修委員長 岡本和貴)

【研修ハンドブックVol. 4 販売について】

- 販売予定時期：令和6年1月下旬（予定）
- 詳しくは、各都道府県団体を通じて12月下旬頃にご案内の予定です。



第15回幼児教育実践学会の開催について

今年度開催した第14回幼児教育実践学会の反響を受け、第15回幼児教育実践学会も対面で開催することといたしました。

開催予定日と開催予定会場をお知らせいたしますので、参加へのご検討をお願いいたします。

発表に関する詳細は令和6年2月以降に、参加に関する詳細は令和6年5月以降にそれぞれお知らせの予定です。

(研究研修委員長 岡本和貴)

【第15回幼児教育実践学会】

- 開催予定日：令和6年8月23日（金）、令和6年8月24日（土）
- 開催予定会場：東京・大妻女子大学千代田キャンパス
- ※ 変更の可能性がありますことを予めご了承ください。